大中小　文字サイズ

**石原軍団　熊本で５年ぶり炊き出し**

　倒壊した住宅が目立つなど被害の大きい益城町では現在、朝と昼におにぎりとパンが１個ずつ、夜は弁当が支給されている。だが、同町在住の竹川たか子さん（６８）は「最初は炊き出しも多かったけど、最近は同じメニューのお弁当が続いていた。２カ月たった今、来てもらえて良かった。寿命が延びました」と感謝。目を輝かせて舘らに声援を送った。

　舘は９日、渡の自宅を訪れた。「誠心誠意、頑張ってください」－無理のきかない体ゆえに現地入りできず、無念であろう渡の言葉。思いを受け取った舘は「僕らが差し上げられるのは元気だけ」と、写真撮影に応じたり、泣く子供に代表曲「泣かないで」を口ずさんだりと、フレンドリーに交流を続けた。

　被災者の女児から折り紙の花束を贈られると、笑みがこぼれた。「『来てくれてありがとう』と言ってくれて、涙ぐんでる方もいらっしゃいました。本当に来て良かった」。

　炊き出しは１５日までを予定。「被災者の方に寄り添いたい」と、舘や、この日は仕事で参加できなかった神田正輝（６５）らは会場脇のキャンピングカーで寝泊まりしつつ、のべ１万２０００食を届ける。